

尊光寺報

第138号
令和5年3月

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

前坊守 赤松幸代 葬儀御礼

前坊守（前任職の妻）赤松幸代は二月二十八日、数え九十三歳を一期として息を引き取り、往生の素懐を遂げました。

総代の皆さまとの協議により尊光寺門徒葬として執行し、通夜は三月二日午後六時より、葬儀式は三月三日午後一時より、ともに尊光寺にて営み、多くの方々にご会葬いただきました。ご門徒の皆さま、ご近所の皆さまには、交通整理や受付を、仏教婦人会の皆さまにはお斎の支度などをしていただき、無事に厳かに葬儀式を執行させていただきました。一方ならないお世話になりましたこと、ここに深く感謝し御礼を申し上げます。まことに有り難うございました。



前坊守幸代は、昭和六年、阿佐幸代としてこの世に生を受けました。徳島高等女学校に進むも、太平洋戦争の戦禍にあつて勉学どころではなかったことをよく申しあげました。その後、若くして結核を患い徳島療養所にて療養中に、戦地から引き揚げてきたものの結核で療養していた前任職の信乗と出会い、結婚に至ります。信乗から手紙で結婚の申込があつたようですが、その手紙がドイツ語で書かれていたようで、「読めない」と一度突き返したと、何度も思い出深かそうに語ってくれました。結核の療養を終え、尊光寺に嫁いで後は、住職信乗と手を携え、また、信乗弟の乗次・香夫妻と上手く役割を分担し、お寺の復興に尽力してくれました。住職信乗を支え、温和

な性格で、時には住職とご門徒の掛け橋となつてくれました。顧みれば、幸代前坊守のお陰をもつて、本堂の平成大修復、書院の修復、庫裏の改築工事と、伽藍境内地の整備をすることができたように思います。

また、信乗とともに、戦地であつたフィリピンを度々訪れ、戦没者の遺骨収集を行い、身元不明の遺骨や遺品を本堂裏の納骨堂に安置し供養するなど、戦争経験者の生き残りとしての思いを生涯強く持ち続けておりました。

信乗とはたいそう仲が良く、平成二十三年に信乗が往生した後、さみしさもあつたのか、「院主さん（信乗）、はやく迎えに来んと何しよん」と呟くこともしばしば。本年は信乗の十三回忌を迎える年でありました。カレンダーを繰つてみれば、信乗の命日四月十六日は幸代の満中陰前日に当たります。

阿弥陀如来は、「必ず救う我にまかせよ」と「南無阿弥陀仏」のみ名となつて、たえず私に呼びかけてくださっています。このよび声を聞き、阿弥陀如来におまかせして、念仏を申し、娑婆のいのち尽きるとき、浄土に生まれて仏となり、あらゆるいのちを救おうとはたらきに出ます。

幸代は、信乗に導かれてお念仏を申す身となり、浄土往生いたしました。この度の幸代の往生を縁として、私たち残された者が導かれ、ますますお聴聞するとともにお念仏を申し、浄土への人生を歩ませていただきます。必ず必ず、浄土で会える確かさを味わいながら念仏とともに過ごさせていただきますよう。

正信偈講座 ③③

（赤い経本一六六）

釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺
龍樹大士出於世 悉能摧破有無見
宣説大乘無上法 証歡喜地生安樂

【訓読】 釈迦如来、楞伽山にして、衆のために告命したまはく、南天竺に龍樹大士世に出でて、ことごとくよく有無のを見を摧破せん。大乘無上の法を宣説し、歡喜地を証して安樂に生ぜん。

【現代語訳】 お釈迦さまは『楞伽經（りょうがきょう）』というお経を説かれる中で、「将来、南インドに龍樹（りゅうじゆ）という者が現れ、物事を有や無とこだわって見る

誤つた見解を打ち破り、この上なく尊い大乘（だいじょう）の教えを説き、歡喜地（かんぎじ）という菩薩の位にいたり、阿弥陀仏の浄土へ往生するだろう」と仰せになった。

前回にづつき今回も、龍樹菩薩についてのお話です。今回は「宣説大乘無上法」から味わつてまいりましょう。

「大乘」とは、以前にも申しましたが、教えを乗物にたとえた言葉で、大きな乗物、つまりは多くの人々が救われる教えを意味します。どのような人であつても仏に成れる可能性があると言ふことで、華嚴宗や天台宗をはじめ日本に伝わって現在行われている仏教のほとんどがこの大乘仏教に分類されています。

大乘仏教は、理論的には全ての人に仏に成る可能性があると言ふますが、実践面では仏に成ることは甚だ難しく、出家修行の道が整わなくてはなりません。じつに、理屈では仏に成れると言われても、実際には極限られた一部のしか叶わないのです。

ここでは「無上法」と付いていることが大事なポイントだと思ひます。無上とは「この上ない」という意味です。大乘仏教の中でもこの上なく勝れた教えを説いたということです。つづまるところそれは「南無阿弥陀仏」の教えであります。

「南無阿弥陀仏」とは、阿弥陀如来が、煩惱に振り回されて仏のさとりに向かつて歩むことのできない私たちの姿を御覧になつて、「必ず救う、我にまかせよ、我が名を称えよ」と、私たちをよんでいる姿であります。「南無阿弥陀仏」の中に私たちが仏になる功德をすべて込めてよんでくださっています。私たちがから仏の方へ歩むのではなく、仏さまが私たちの所に来て下さつて下さる姿であります。だからこそ、修行のできる、できない、の区別無く、どのような者でも浄土に参ることができなのです。それゆえ、お念仏の教えを「大乘無上法」とおっしゃるのです。どれほど素晴らしい発見や発明をしても、それが多くの人にとつて使いやすいものでなければ真価を發揮しません。例えば、携帯電話はかなり昔にその理論はできていましたが、小型の携帯電話にならなければ、簡単に電話がかけられる仕組み

にならなければ、これほど普及しなかつたでしょう。お念仏の教えはどのような者でも称えやすく浄土に生まれやすい、もつとも勝れた教えであるのです。

つづいて「歡喜地」とは、菩薩の修行の階段で言えば、もう階段から転げ落ちることがなくなつた位のこと、修行が後戻りすることのない喜びの境地と言われます。「不退」の位とも呼びます。大乘仏教を大成された龍樹菩薩は「歡喜地」の境地に進まれた菩薩さまですが、それでも「南無阿弥陀仏」のお念仏の道を勧めて下さり、みずからも「安楽」なる阿弥陀仏の極楽浄土へと生まれていかれたのです。

庫裏改築・本堂北側縁工事の報告

庫裏の改築工事は、全工事が終わり、昨年の報恩講準備では、お餅つきなど、さつそく厨房を使用することができました。

また本堂北側の外縁を本堂内部に取り込むための工事を行いました。本堂から渡り廊下へ出やすくなり、また収納場所としても使用できるようになりました。



法要・行事のご案内

感染症対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。

◎春の彼岸会永代経法要

【3月21日(火・祝)】

午後1時より法要・法話

【3月22日(水)】

午後1時より法要・法話

※22日は仏教婦人会総会を兼ねます。会食は11時半より



【法話講師】

本願寺派布教使 岡部正顕 師(広島県 南泉坊)
夕陽の沈む西方に浄土を思い、ともにお念仏申しましょう。

◎宗祖降誕会法要ならびに門信徒総会

【5月1日(月)】

午前10時より法要・法話、引き続き門信徒総会、会食
※食事準備お手伝い下さる方は、午前9時頃よりお願い致します。

宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝いし、私たちが南無阿弥陀仏のお念仏に出会えたことを喜ばせていただく法要です。どなたさまでもお参り下さい。

【法話】副住職

◎京都本山参拝旅行

ご本山の「親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要」にお参りいたします。五十年に一度のお慶び法要ですので、お誘い合わせの上ご参加ください。

【日帰り日程】 経費1万5千円

【5月17日】朝6時半、阿波市大俣出発↓各地集合↓京都高台寺(観光参拝)↓大谷本願寺(昼食・納骨)↓西本願寺(法要参拝)↓淡路島(夕食)↓帰路。

【1泊日程】 経費8万円

【5月16日】朝6時45分、阿波市大俣出発↓各地集合↓徳島空港より飛行機↓羽田空港↓東京築地本願寺(参拝・昼食)↓浅草観光↓ホテル(品川プリンス)↓屋形船(夕食)

【5月17日】ホテル出発↓品川駅より新幹線乗車↓京都駅↓大谷本願寺(昼食・納骨)↓西本願寺(法要参拝)↓淡路島(夕食)↓帰路。

※大谷本願寺に納骨・分骨希望の方はお申し出ください。

※帰敬式(おかみそり)を受け、法名を希望の方は申し出下さい。

※一泊の申込は4月8日までに願います。

◎盂蘭盆会のお勤め

【8月15日(火)】 午後6時より

お盆をご縁に、地獄に落ちるような身の上がお浄土に参る身の上であったことを聞き喜びのお勤めです。

なお、初盆法要をなさる方はお勤めしますので、ご希望の日を相談ください。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■仏教講座『正信偈(しょうしんげ)』

「きみようむりようじゆによらい」。浄土真宗で一番よく親しまれてきた「正信念仏偈」をテキストに、インドから中国、日本へと伝わった仏教の教え、念仏とは何かを一緒に学んでまいりましょう。

●毎月第3金曜日 10時半～12時 月額3300円

■親鸞聖人と『歎異抄(たんにしよう)』

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

●毎月第2月曜日 13時半～15時 月額3300円

【教室・申込先】

徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校
徳島市寺島本町西1-5 アニコ東館7階

TEL 088-611-3355

徳島新聞カルチャーセンターは、徳島本校(川内)と徳島駅前校(アニコ九階)がひとつになり、徳島駅前アニコビル七階に移動し、新しく徳島本校としてスタートしています。



Tokushima Shimbun CULTURE CENTER

令和5年 年忌表

令和5年の法事と亡くなった年

1周忌	令和 4(2022)年
3回忌	令和 3(2021)年
7回忌	平成29(2017)年
13回忌	平成23(2011)年
17回忌	平成19(2007)年
25回忌	平成11(1999)年
33回忌	平成 3(1991)年
50回忌	昭和49(1974)年
61回忌	昭和38(1963)年
100回忌	大正13(1924)年
150回忌	明治 7(1874)年
200回忌	文政 7(1824)年
250回忌	安永 3(1774)年
300回忌	享保 9(1724)年

過去帳やお位牌をご覧ください。

三月二十一日(火・祝) 両日とも午後一時より

二十二日(水) お勤めと法話

※二十一日は仏教婦人会総会を兼ねてお勤めします。会食は十一時半より、食事準備お手伝いできます方は九時頃よりお願い致します。

はる ひ がん え えいたいきょうほうよう

春の彼岸会永代経法要

太陽の沈みゆく西方に、懐かしい方の往かれた浄土を思い、先立った方も、後をゆく私も、ともに南無阿弥陀仏に抱かれていることを聞かせていただきました。

法話 岡部正顕 師(広島県 南泉坊住職)

浄土真宗本願寺派 尊光寺

五月一日(月) 午前十時より お勤めと法話

続いて 門信徒総会、会食

※会食の準備お手伝いできます方は九時頃よりお願い致します。

宗祖親鸞聖人降誕会法要

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のお誕生をお祝いし、この私に南無阿弥陀仏の念仏が届いていることを喜ばせていただきました。どなたさまもお参りください。

法話 副住職 浄土真宗本願寺派 尊光寺

— 2023(令和5)年ご本山参拝旅行のご案内 —

今回はご本山の法要「親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要」に参拝します。50年に一度のお慶び法要ですので、どうぞお誘い合わせてご参加下さい。

【日帰り】と【1泊】の行程がありますので、どちらかお申し込み下さい。京都西本願寺の法要参拝・大谷本廟参拝に加えて、【日帰り】は京都高台寺の観光を、【1泊】は東京築地本願寺の参拝と東京観光を予定しております。

大谷本廟に納骨・分骨を希望の方はお申し出下さい。



本願寺にて法名を頂く帰敬式(おかみそり)を希望の方はお申し出下さい。



■ 日程・費用 ■

【日帰り】 15000円 (バス・昼食・夕食)

2023年5月17日 6:30阿波市大俣出発——土成・板野・鳴門、各地集合——京都——高台寺(観光参拝)——11:30大谷本廟(昼食・納骨)——13:30西本願寺(法要参拝)16:00——淡路ハイウェイアス(夕食)——鳴門・板野・土成・大俣20:20

【1泊】 80000円 (バス・飛行機・新幹線・宿泊・食事)

2023年5月16日 6:45阿波市大俣出発——土成など各地集合——8:00徳島阿波おどり空港9:15—飛行機 JAL —10:25羽田空港——11:30築地場外市場(昼食)・築地本願寺(参拝)——浅草観光——ホテル(品川プリンス)——屋形船(夕食)——ホテル

2023年5月17日 8:15ホテル出発——品川駅8:59—新幹線のぞみ——11:06京都駅——11:30大谷本廟(昼食・納骨)——13:30西本願寺(法要参拝)16:00——淡路ハイウェイアス(夕食)——鳴門・板野・土成・大俣20:20



京都西本願寺



東京築地本願寺



1泊の申し込みは4月8日までをお願いします。

尊光寺 0883-36-3026



2023 (令和5) 年
尊光寺 行事案内



3月21日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 春の彼岸会永代 経 法要
3月22日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 春の彼岸会永代 経 法要 (仏教婦人会総会を兼ねます。会食準備9時～、会食11時半～、法要1時～)
5月 1日	午前10時	しゅうそしんらんしようにんごうたん え 宗祖親鸞 聖 人降誕会法要
	続いて午前中	もんしんと そうかい 門信徒総会、会食 (会食準備お手伝い下さる方は9時頃よりお願いします。)
5月17日 (日帰り5/17)		ご本山法要参拝 (申し込みください) (1泊 5/16～17 (東京築地本願寺と京都西本願寺))
8月15日	午後6時頃	うらぼんえ 孟蘭盆会法要
9月23日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 秋の彼岸会永代 経 法要
9月24日	午後 1時	ひがん ええいたいぎょう 秋の彼岸会永代 経 法要 (仏教婦人会老人ホームお接待 準備9時～)
12月16日(土)	午後 1時	ほうおんこう 報恩講法要
	午後 6時	ほうおんこうおおたい や ごでんしよう 報恩講大速夜・御伝 鈔 拝読
12月17日(日)	午前10時	そうえいたいぎょう 総永代 経 法要
	午後 1時	ほうおんこう ごまんざ ごでんしよう 報恩講御満座・御伝 鈔 拝読
12月31日	午後11時40分	じよや え 除夜会 (除夜の鐘)
1月 1日	午前 0時	しゅしよう え 修正会
毎月15日	午後 夕刻	しゅうそがつきたいや 宗祖月忌速夜法要
1月 9日～16日		ご本山御正忌報恩講法要

※ その他の行事は随時お知らせ致します。
 皆様のご参拝をお待ちしております。



副住職

尊光寺 赤松信映

担当

徳島新聞

カルチャーセンター

～講座案内～

徳島新聞カルチャーセンター（徳島駅前アミコビル7階）

■ 仏教講座『しょうしんげ正信偈』 ■ （2023年4月より）

「きみょうむりょうじゅによらい」。浄土真宗で一番よく親しまれてきたお勤めしょうしんねんぶつげ「正信念仏偈」をテキストに、インドから中国、日本へと伝わった仏教の教え、念仏の教えを一緒に学んで参りましょう。

毎月 **第3金曜日** 10:30～12:00 月額 3,300円

徳島新聞カルチャーセンター（徳島駅前アミコビル7階）

■ しんらんしょうにん親鸞聖人と『たんにしょう歎異抄』 ■

「悪人こそが救われる!?!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

毎月 **第2月曜日** 13:30～15:00 月額 3,300円



【申し込み先/教室】

徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-5 アミコ東館7F

TEL:088-611-3355

どなたでも、途中からでも、何度でも、お申し込み頂けます。



Tokushima Shimbun
CULTURE CENTER